

# 施設一体型小中一貫教育校における 学年ブロックの考え方について

2024年6月20日

施設一体型研究会資料



# 小中一貫教育

広島県府中市

教育が変わる  
学校が変わる  
子どもが変わる。

平成24年度版

府中市教育委員会



横浜市霧が丘学園（義務教育学校）  
<https://www.kanaloco.jp/news/social/entry-70305.html>



品川学園（義務教育学校）  
<https://shinagaku.shinagawa.andteacher.jp/>

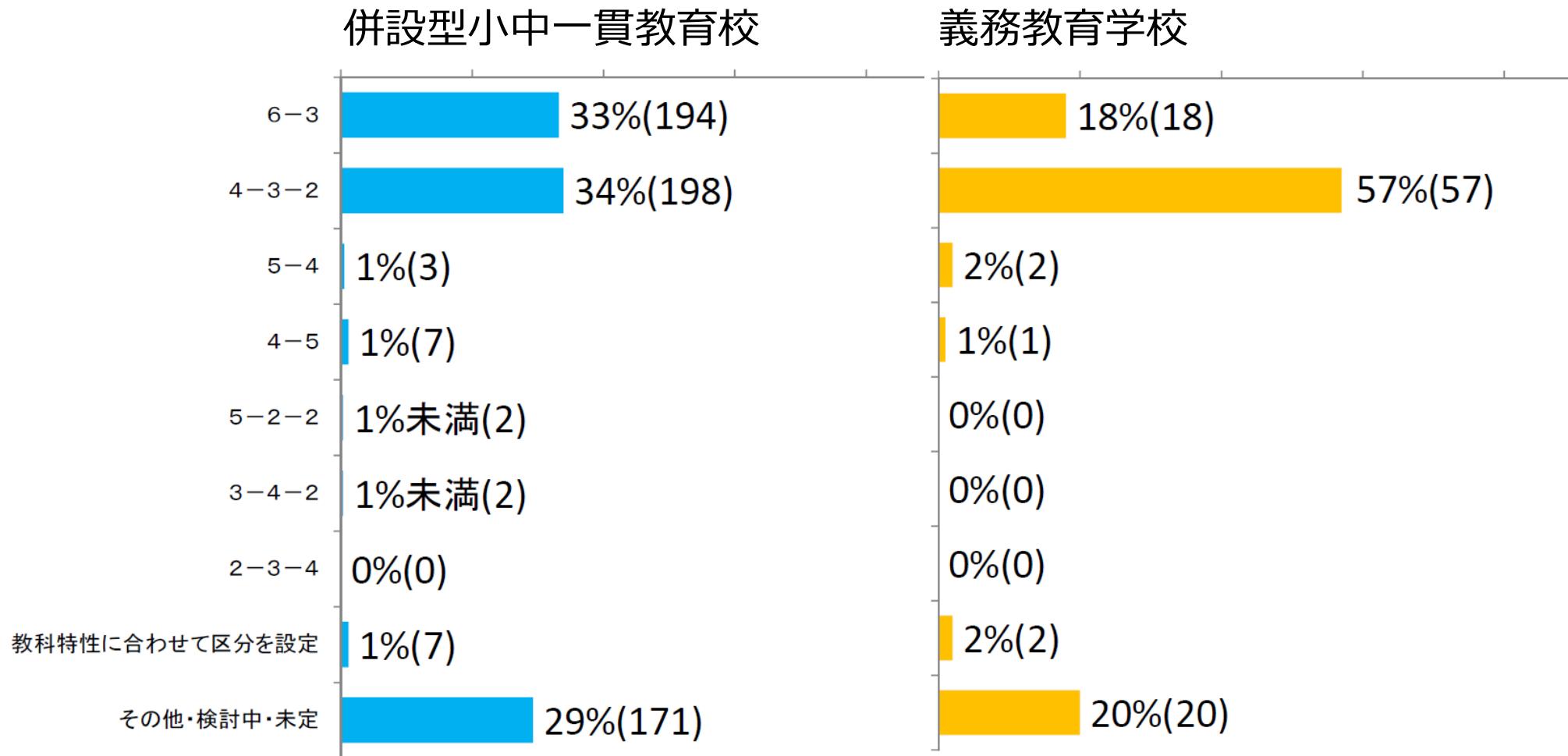


京都市立大原学院  
<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/ohara-sc/start/>

# 小中一貫教育の意義

- 教育方針やカリキュラムの一貫性と最大9歳差の利点を生かした仕組みである
  - ◆ 施設分離型
    - ・ 教育方針やカリキュラムの一貫性  
不連続、ダブリの解消
    - ・ 異年齢交流のイベント化
  - ◆ 施設一体型
    - ・ 異年齢交流の日常化  
目標意識の育成(上級生への憧れ)  
規範意識の醸成(下級生への模範)
    - ・ 教育的意味のある複数の段差設定  
9年間を3つの学年ブロックに分ける  
5-4制、4-3-2制 …

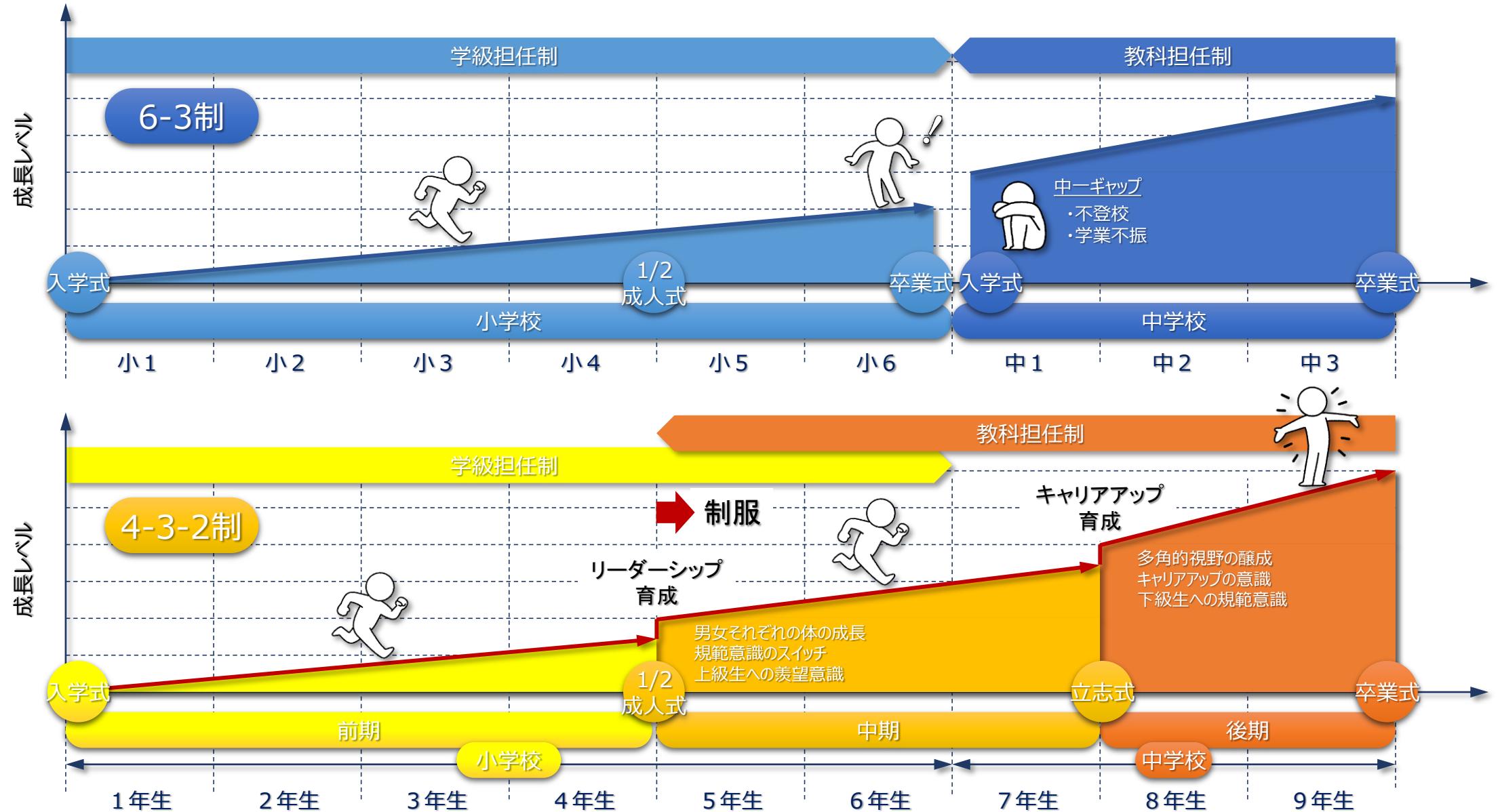
# 9年間の学年区切りの種類



回答:584件(併設型小学校・中学校設置及び設置予定、設置検討中件数)

回答:100校(義務教育学校設置及び設置予定校数)

# 小中一貫教育の仕組み



# 学年制を変えることの意義

- 9年間の区切りやその数を変えることにより、教育的意味のある成長ステップを設定することができる

## ◆ 小中一貫教育の背景にある課題

自己肯定感の低下

中一ギャップによる順応性低下

...

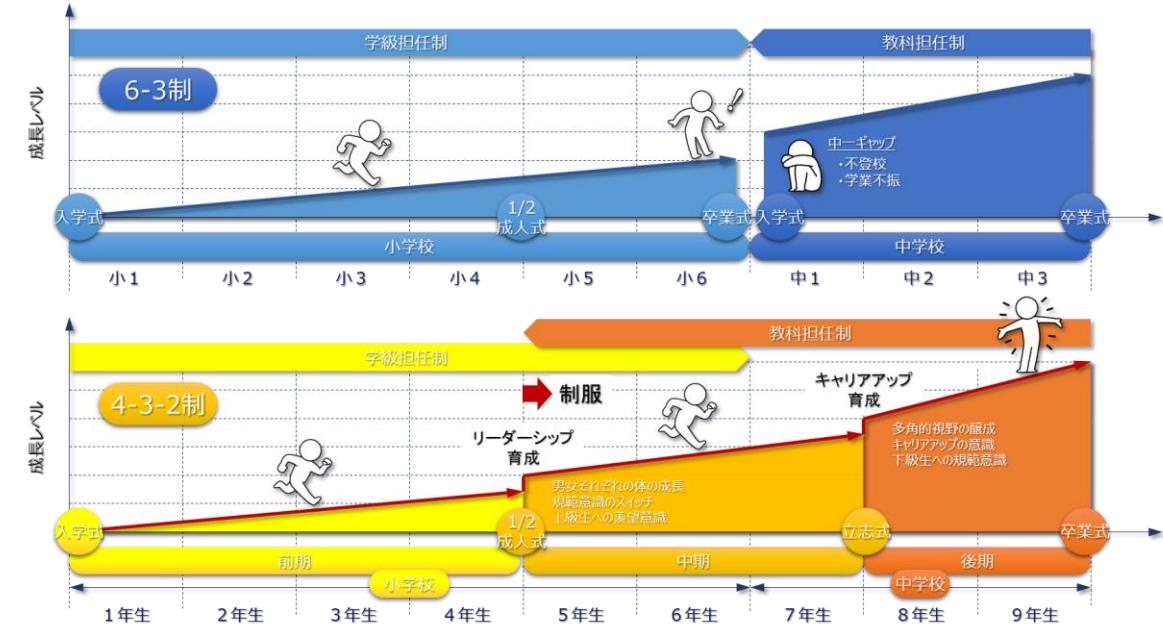
## ◆ 3ブロックからなる学年制の例 … 4-3-2制

1-4年生 リーダーシップ意識の育成

5-7年生 中一ギャップ解消

8-9年生 キャリアアップ意識の醸成

5年生から制服(シャキッと感)



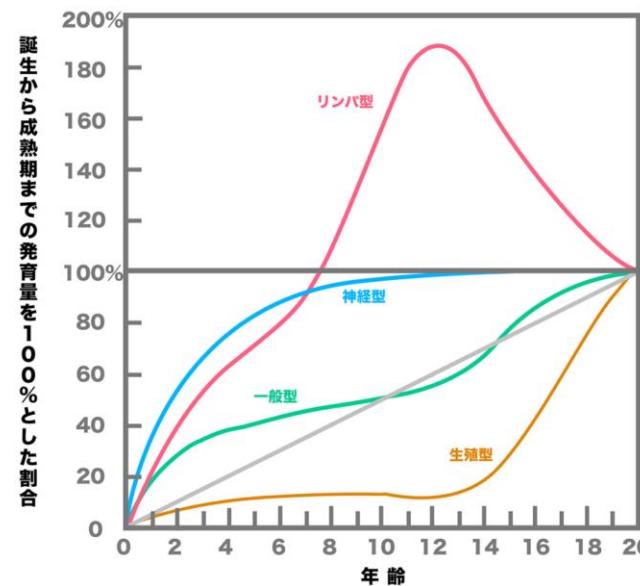
# 4年生で区切る意義

- 1947年に6-3制が制定された時代に対して身体の成長が早まっている
- 学年区切り年度を心身の成長に合わせることが必要である

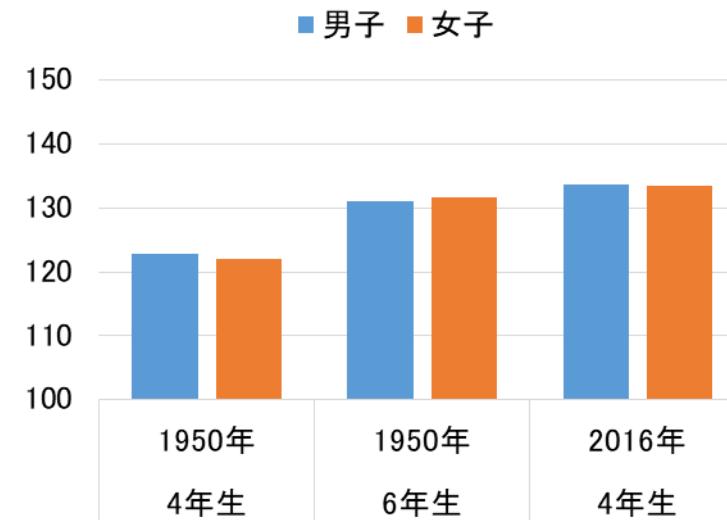
## ◆ 身体的な成長

食の変化、多様化、生理的変化  
身長、体重、ホルモン、声変わり…

スキヤモンの成長曲線



身長の平均 [cm]  
「学校保健統計調査」より



2016年の4年生は  
当時の6年生よりも  
身長が高い

# 7年生で区切る意義

- 5-6-7年生を連續させることによって中一ギャップの解消につなげる
- 8年生から進路を考え始めることにより個の学びを充実させる

◆ ステージコンセプト 成長イメージを明確化  
基礎 → 活用 → 個の学び：進路

	第1ステージ (1年生～4年生)	第2ステージ (5年生～7年生)	第3ステージ (8年生～9年生)
コンセプト	学ぶための基礎作り	学んだ力の活用と探求	じっくり進路を考える
体の姿	聴く姿勢の徹底	協働的な学び 話し合い・関わり合い	個の学びの充実
授業時間	45分授業	50分授業	50分授業
各教科	学級担任	教科担任	教科担任

# 4-3-2制にそった学校行事

- 教育段差を意識した学校行事により、4-3-2制の効果を引き出すことができる

## ◆ リーダーシップ育成 …「自分たちがリーダーだ」

- ・ 品川学園(ブロック制) 春季運動会“天桜祭” [5+6+7+8+9]  
秋季運動会“光棕祭” [1+2+3+4]

- ・ 日野学園(クラスター制) ブロックごとの縦割り班活動  
Brothers & Sisters [1+2+3+4]  
Five & Six & Seven [5+6+7]  
Eight & Nine [8+9]

- ・ 府中学園(ステージ制) 異学年合同遠足 [1+9], [2+3+4+8], [5+6+7]  
4年生, 7年生=ステージリーダー  
9年生=学園リーダー  
6-3制よりもリーダー経験が増える



品川学園HP <https://shinagaku.shinagawa.andteacher.jp/>

日野学園HP <https://hinogaku.shinagawa.andteacher.jp/>

府中学園のあゆみ ~義務教育学校の可能性を求めて~

府中学園HP <https://sites.google.com/g-edu.city.fuchu.hiroshima.jp/fu-chu/>

# 施設一体型に適した学校施設

- 学年制設計と学校施設は密接な関係がある
- 4-3-2制の効果を引き出すための学校施設が必要である
  - ◆ 「見える」「見せる」を意識した教室配置(異年齢活動の日常化)
    - ・ 学年ブロックごとの教室群
    - ・ 異学年交流に適した配置
  - ◆ 日常的に見られている、見えている工夫(規範意識と目標意識)
    - ・ 下駄箱、掃除用具入れの配置
    - ・ プリントボックスの配置
  - ◆ 進級意識高揚アイテム(前期、中期からも後期の姿が見える)
    - ・ 白木の机、鍵付きロッカー

# 4-3-2制に適した学校施設

## ● ブロックごとの教室群



異年齢交流のために設計された  
必然性のある教室配置

- 昇降口は一つ
- 学童保育、子育て支援センターから1年生の教室が見える
- 本館二階前期ブロック(2,3,4年生)と後期ブロック(8,9年生)が同じフロアの隣り合わせに配置
- 中期ブロック(5,6,7年生)は別棟に配置 (東館二階)
- 5,6,7年生は、一階学童保育の前を通らなければならない

# 朝の登校風景

## ● 異学年交流のはじまり



前期ブロックと中期ブロックの登校風景



後期ブロックの登校風景



前期ブロックと中期ブロックの登校風景

# 目標意識を高める工夫

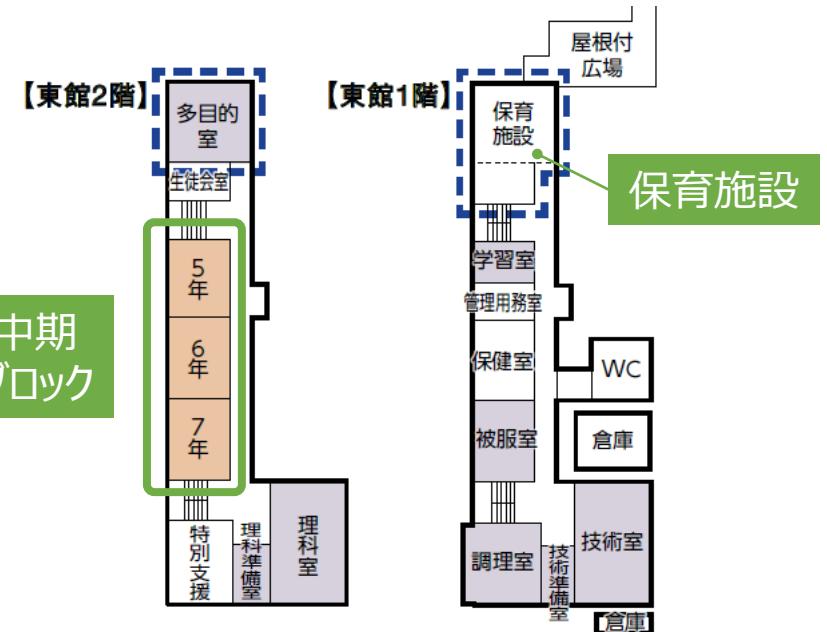
- 学年目標+ブロック目標で中期目標を設定することができる



京都大原学院 ブロック目標

# 規範意識を高める工夫

- 「常に下級生に見られている」という意識が重要



中期ブロックの下駄箱

# 目標意識を高める工夫

## ● 机やロッカーの差別化で「あこがれ感」を演出

京都大原学院

- ✓ 1~7年生までと8,9年生の机は異なる
- ✓ 白い天板の新しい机は後期ブロックに優先配置される



品川学園

- ✓ 後期ブロックは鍵付きロッカーが配布される



## ● 見通しが効く教室配置

- ・ 5、6、7年生が横並び（日野学園は5,7,6年）
- ・ 8、9年生が横並び
- ・ 廊下の端にある教務センターからは、これらの教室群を見通すことができるため、日常的に子どもたちの様子を捕えられる



## ● 共有スペースが広く確保

- ・ 多目的用途のステージは、展示やイベントなどを通じた異学年交流が可能である
- ・ 教室群の廊下が十分に広いため、ここを異学年交流の場としても使用できる
- ・ ライブラリーはオープンスペースである



## ◆ 動線が重ならないよう十分なスペース確保

- ・ 間口が広い昇降口
- ・ 低層階にある低学年用の教室には直接、校庭に出入りできる出口がある
- ・ 防災の視点では、十分な避難経路が確保されている



高学年用昇降口



高学年用昇降口

# まとめ

- 小中一貫教育の9年間を区切る学年ブロックの考え方を紹介した
- 次の二つを考慮したご義務教育学校の学校施設を紹介した
  - ✓ 学年ブロックごとの教室群と教室配置
  - ✓ 異学年交流を日常化できる教室配置と共有スペース
- 小中一貫教育の学年制設計と学校施設は密接な関係がある